

決戦を明後日に控え、有力選手が健闘を誓う

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報1

世界34カ国から150名を超えるトップアスリートが参加

4月15日(日)に開催されるNTTトライアスロンジャパンカップ・ITUワールドカップ石垣島大会に先立ち、沖縄県石垣市の大濱信泉記念館で13日(金)、有力選手の記者発表が行われた。

司会はITUメディアのバリー・シェプレイ氏。参加した選手は、2004アテネ・オリンピック競技会の女子金メダリストであるケイト・アレン(オーストリア)、過去3回今大会を制しているカートニー・アトキンソン(オーストラリア)、日本ナショナルチームからは、若手の上田藍(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)と田山寛豪(チームテイケイ)の二人。

アテネ・オリンピック以後、約2年間トライアスロン競技から離れていたアレンは、その間、アイアンマンレースに参加していたという。その理由を「アテネの前から決めていたこと。だけど今年は北京オリンピックの代表の座を獲得するために、トライアスロンに戻ってきた」と話した。

また前回の覇者であり、過去3回、石垣島大会を制しているアトキンソンは、「昨年この大会のスィムで結婚指輪をなくしてしまったのだが、それが逆に幸運を招いているのかもしれない」と言い、今年も4回目の王座を目指す。

その後、出席した4選手全員へ



記者会見に出席した上田、アレン、アトキンソン、田山の各選手たち(左から)

上田 藍

(シャクリー・グリーンタワー・稲毛インター)



昨シーズンは全部で19の大会に出場し、世界での経験を増やしたが、オリンピックはたった1戦。だから今年は参戦する数も絞り、一つの大会で自分のピークを出せる力を付けたい。そのためにもこの石垣島大会の結果が今後のものさしになると思う。

田山 寛豪

(チームテイケイ)



自分はガチンコレースというか、一点集中したときの強さは誰にも負けられない。世界に通じるためには、100%の力を出し切ることで、それができれば北京につながると思っている。後半に遅れてしまわないように、気を引き締めてレースに臨みたい。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合(JTU) オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー



決戦を明後日に控え、有力選手が健闘を誓う

ITUワールドカップ石垣島大会直前情報1

「もし、自分が今大会に参加していなかったら、誰が優勝すると予想するか」という質問に、田山はアトキンソンの名をあげ、アトキンソンは同郷のクレイグ・ウォルトン（オーストラリア）の名をあげた。上田とアレンはそろって、エマ・スノーシル（オーストラリア）が優勝すると予想した。

13日現在、今大会にはこのほかにも34の国から151名の選手が参戦する予定となっている。なかでも女子の注目選手は上田、アレンの両選手が「強敵」としたスノーシル、さらにバネッサ・フェルナンデス（ポルトガル）やアナベル・ラックスフォード（オーストラリア）などのワールドカップの常連たち。男子は現在ワールドランキング1位のブラッド・カーフェルト（オーストラリア）や、クリス・ゲメル、ベバン・ドカティ（ともにニュージーランド）といった南半球勢からも目が離せない。

日本選手はナショナルチーム9名を含め、14名の選手が出場。庭田清美（アシックス・ザバス）や、西内洋行（西京味噌）をはじめとするベテラン勢から、上田、田山と同年代の杉本宏樹（チームテイケイ）といった若い選手にも要注目。今年はコースも一新されたため、すべての選手にとって初体験。新コースで初の栄冠をつかむのは誰だろうか。

明日、14日（土）には同会場で日本ナショナルチームの記者発表が行われる予定。



レースの二日前はなごやかな雰囲気。しかし、日曜日には隣の選手がライバルになる

ケイト・アレン
（オーストラリア）



2週間前に開催されたムール・ラバ大会では、2年の間に選手たちのレベルが上がっていて驚いた。いままではスイム、バイク、ランのうち、二つがトップレベルであれば良いと思っていたけれど、これからはすべてを伸ばしていかないとダメだと感じた。

カートニー・アトキンソン
（オーストラリア）



最近では、スイム、バイクがすばらしい選手が増えているので、ランが勝負になるだろう。しかしそのランに関して、非常に高いレベルになっている。自分は技を使う走りでもこれまでも勝利を重ねてきたが、今回もそれが大きなポイントになると思う。

2007年度社団法人日本トライアスロン連合（JTU）オフィシャルスポンサー&オフィシャルパートナー

